

# 治水

発行 全国治水期成同盟会連合会

東京都千代田区麹町4丁目8番26号 ロイクラトン麹町  
電話 03(3222)6663 FAX 03(3222)6664  
ホームページ <https://zensuiren.org/>  
お問い合わせ [infoinfo@zensuiren.org](mailto:infoinfo@zensuiren.org)  
編集・発行 椿本和幸



紅葉する定禅寺通り(東北大会・宮城県)



北方文化博物館(北陸大会・新潟県)



天竜川水系諏訪湖(中部大会・長野県)



「レインボーライン」山頂公園山麓レストランより  
望む三方五湖(近畿大会・福井県)



大山(中国大会・鳥取県) 写真提供：鳥取県



吉野川河口(四国大会・徳島県)



大村市を試験走行する西九州新幹線かもめ  
(九州大会・長崎県)

## 目次

東北地方治水大会の開催について.....	2	中国地方治水大会の開催について.....	12
北陸地方治水大会の開催について.....	6	四国地方治水大会の開催について.....	15
中部地方治水大会の開催について.....	8	九州地方治水大会の開催について.....	17
近畿地方治水大会の開催について.....	10		

# 東北地方治水大会の開催について

令和4年10月28日(金) 13:30  
 仙台市 仙台サンプラザホテル  
 宮城県 土木部 河川課

令和4年度東北地方治水大会の事務局を担当します宮城県から、本県のPRと大会の御案内をいたします。

## 【宮城県について】

宮城県は、日本の首都東京から約300km北東、東北地方の中心に位置しています。今年の東北地方治水大会の会場でもあります、県庁所在地の仙台市は人口100万人を越える政令指定都市で、鮎が遡上する広瀬川やケヤキ並木など豊かな自然と緑が近代的な市街地と融合した杜の都と呼ばれています。

東は太平洋に面し、豊かな漁場と日本三景の一つ松島をはじめとする風光明媚な観光地などに恵まれています。

西には蔵王、船形、栗駒などの山々が連なり四季折々の姿を見せ、そこを源流とする多数の河川、中央部には有数の穀倉地、仙台平野が広がります。

このように海、山、川、平野が調和した自然環境が、豊かで暮らしやすい宮城県をつくりだしています。

### 【基本情報】

総面積は、7,282.29 km<sup>2</sup>

(国土地理院「令和3年全国都道府県市区町村別面積調」) 47都道府県の中で16番目です。

人口は約228万2,106人(総務省R3年調査)で47都道府県の中で14番目に位置しています。

## 【宮城県と国際社会のつながり】

仙台塩釜港は、東日本大震災からの復旧・復興が進み、現在は県内および東北の産業や経済を支える国際海上物流の拠点となっています。

仙台空港は、民営化以降、路線が拡充され、ソウル、大連-北京、上海、台北、バンコクへの定期路線が運航されており、世界と東北をつなぐ玄関口となっています(新型コロナウイルス感染症の影響により、通常どおり運行されていない場合があります。)

## 【宮城県の地形や河川について】

宮城県は本州の北東部に位置し、西部に奥羽山脈が南北に走り、東部には北上山地が岩手県から続いて牡鹿半島に達し、阿武隈山地が福島県から続いて岩沼市に達しています。

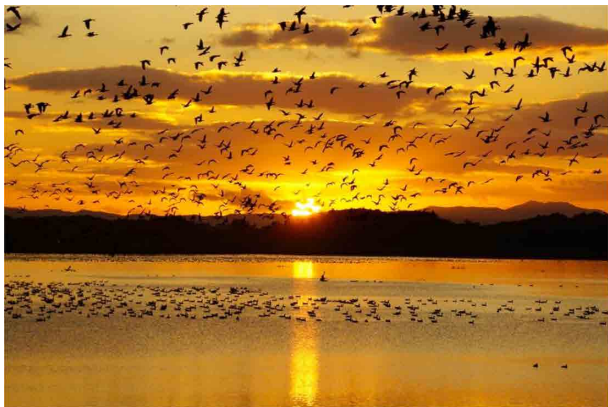
奥羽山脈の東側には幅10kmから30kmの丘陵地がなだらかな起伏を見せています。奥羽山脈からは、これを水源とする迫川、江合川、鳴瀬川、吉田川、七北田川、広瀬川、名取川、白石川などの河川が多く、支流を集めて東に向かって流れ、岩手県からは北上川が、福島県からは阿武隈川が、太平洋に注いでいます。

一方海岸線は、牡鹿半島を境に北は岩手県まで続く「三陸南沿岸」、南は福島まで続く「仙台湾沿岸」に二分され、その海岸線総延長は約830kmであり、「三陸南沿岸」は、リアス式海岸を形成し、天然の良港となっており、「仙台湾沿岸」は、千年の松の緑に映える日本三景松島を除き、砂浜が続く柔らかな曲線を描く海岸線となっています。



松島湾

宮城県の地形上の特徴として、北上川、鳴瀬川、名取川、阿武隈川などによって創られた沖積平野が広がっていることが挙げられ、特に迫川流域は河口から50kmから60km上流にありながら標高が5mから10mと低く、そこには渡り鳥の飛来地として伊豆沼、内沼、蕪栗沼などの湖沼が残っています。



伊豆沼・内沼(朝の飛び立ち)



伊豆沼・内沼(日向ぼっこ)

宮城県内を流れる河川は、阿武隈川水系、名取川水系、鳴瀬川水系及び北上川水系の264の一級河川、七北田川水系ほか69の二級河川で、市町村管理河川も含め388河川、河川延長は約2,573kmとなっています。

**【宮城県の水災害について】**

東日本大震災から11年が経過し、これまで、レベル1(L1)津波対応の防潮堤の整備を行い、「粘り強い県土構造への転換」を行ってきました。

壊滅的被害を受けた県北部に位置する気仙沼市



大谷地区海岸(令和3年7月撮影)

の大谷地区海岸では、地域の堤防復旧に際して、海水浴場の砂浜維持とまちづくりも連携させることにより、地域の安全のみならず、砂浜と眺望を活かした地域活性化との両立を図る創造的復興に取り組んだ事業が完成しました。

近年では、平成27年関東・東北豪雨や令和元年東日本台風など、気候変動の影響等により激甚な災害が頻発しております。

現在、宮城県土木部では、これらの水災害に対応するため、「見える川づくり計画(2021)」を作成し、洪水被害の防止、軽減に向けた施策を進めており、上記計画により作成した「新・災害に強い川づくり緊急対策事業アクションプラン」に基づき、迅速な災害復旧事業の推進、早期の河道断面確保による流下能力の向上、災害復旧と一体となった更なる水害リスク軽減、ダムの治水機能の強化及び円滑な避難に向けたソフト対策の充実強化等、ハード整備とソフト対策を一体的に推進しているところです。



川内沢ダム竣工イメージ1



川内沢ダム竣工イメージ2

このうち、令和元年東日本台風で特に甚大な被害があった県南部の丸森町を流れる内川、新川、五福

谷川では、国の権限代行により、河道掘削、築堤及び堤防機能の強化に取り組んでいます。

ダム事業についても、事前放流の実施方針を盛り込んだ「治水協定」を令和2年度に締結して運用を開始し、洪水調節機能向上に取り組むとともに、新たなダム建設事業である川内沢ダムの工事を推進しております。

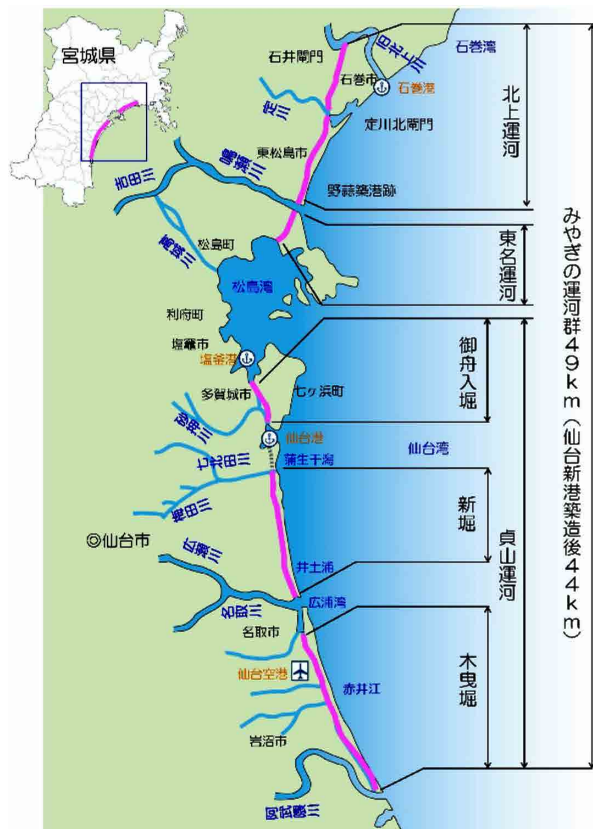
また、地域と連携した魅力ある河川・海岸空間を創出するべく、河川愛護会やみやぎスマイルリバー・プログラム、みやぎスマイルビーチ・プログラムなど、民間と行政のパートナーシップのもと、河川、ダムや海岸の良好な環境のために取り組んでいます。



「みやぎスマイルリバー・プログラム」イメージキャラクター レビアちゃん

「みやぎスマイルビーチ・プログラム」イメージキャラクター ぴいちゃん

宮城県沿岸には、旧北上川から松島湾を通り阿武隈川まで外洋を通らず舟運が可能な日本一長い運



みやぎの運河群

河群があります。この運河群は、「貞山運河」「東名運河」「北上運河」3つの運河からなっており、総延長は約49km(仙台新港築後は約44km)もあります。

この運河群は、現在も治水や利水の機能に加え、歴史、環境、景観等の魅力を有する土木遺産として、多くの人々に愛され続けています。



東名運河

震災による運河沿川での復旧・復興事業が概ね完了し、今後は運河の更なる利活用に向けて広域な連携を推進するため、みやぎの運河群利活用推進会議を設立し、行政機関や民間団体等との意見交換を継続して行い、関係機関との連携強化を図っていきます。



木曳堀の松並木保全

### 【県民と河川の深い繋がり】

宮城県を含む東北地方の各地域では、秋になると屋外で里芋を使った鍋料理を食べる「芋煮会」を行う風習があります。

地域によって具材や味付け、やり方等は様々ですが、宮城県の場合、会場は主に河川敷が選ばれることが多く、大きな鍋を囲み、談笑しながら芋煮を作って食べる方法が一般的です。最近では、同時にバーベキューを楽しむ方も多いようです。

河川敷で行われる芋煮会は、川のせせらぎなどを

聞きながら大自然の中で人と人との繋がりを確かめ合い、さらに深めることができるものとなっております。



芋煮会

### 【会場付近のご紹介】

本日の会場に面しております宮城野通りは、仙台駅と楽天生命パーク宮城とを一直線に結んでおり、この会場は、ちょうどその中間あたりに位置しております。

会場から仙台駅までの道中を歩けば、市街地でありながら、秋は紅葉の、夏は新緑の木漏れ日を楽しむことができ、噴水などを楽しみながら、“杜の都”の一端を感じることができます。

また、杜の都の代名詞とも言える定禅寺通りのケヤキ並木では、紅葉を楽しむことができます。



紅葉する定禅寺通り

### 【食材王国宮城】

収穫の秋を迎え、食材王国みやぎを目指す県内には、仙台市のほか、蔵王や栗駒山などの山の幸や金華山沖をはじめとした海の幸など、豊富な特産物がございますので、是非、宮城に足を運んでいただき、初秋の宮城を楽しんでいただければ幸甚に存じます。



はらこめし



ずんだ餅

# 北陸地方治水大会の開催について

令和4年10月27日(木) 13:10～  
新潟市 新潟グランドホテル  
新潟県土木部河川管理課

令和4年度北陸地方治水大会の事務局を担当します新潟県から、本県の紹介と大会のご案内をさせていただきます。

## 【新潟県のすがた】

新潟県は、本州の日本海沿岸のほぼ中央部に位置し、信濃川や阿賀野川など数多くの河川が日本海に注いでいます。川の下流には越後平野、高田平野など広大で肥沃な平坦地が広がり、全国有数の食料供給基地を形成しています。

気候・風土は、おおむね阿賀野川を境として、南側は北陸型、北側は東北型に入ります。魚沼地方や上越地方は日本でも特に積雪量の多いところ です。

面積は12,584km<sup>2</sup>で全国5位、また本州側の海岸線は331.0kmと非常に長く、変化に富んだ海岸美を形成しています。砂丘が発達しているところも多くあります。



水都新潟を象徴する信濃川やすらぎ堤「ミズベリング」の取組(提供:新潟市)

新潟市の北西約45kmには佐渡島が、その北東には粟島があります。佐渡島は、周囲280.9km、面積855.68km<sup>2</sup>で、北に金北山を主峰とする大佐渡の山地、南は小佐渡の山地が平行して走り、中央部に国中平野が広がっています。

現在、佐渡では金の生産技術に関わる採掘・選鉱・製錬・精錬の遺跡、生産体制に関わる奉行所跡や鉱山集落跡などが残り、「佐渡島(さど)の金山」として世界遺産登録を目指しています。

## 【河川の現状】

新潟県は、我が国最長の信濃川をはじめとして荒

川、阿賀野川、関川、姫川の一級水系767河川と二級水系400河川を合わせた合計1,167河川、総延長約5,169kmを有しております。そのうち延長約4,896kmが、新潟県管理河川となっており、県では限られた予算の中で早期に浸水被害の解消、軽減を図るため、水害対応等、河川の重点的整備や河道流下能力の低い箇所を安全度を段階的に上げるなど、効果的、効率的な整備を進め、防災・減災などによる安全・安心の向上を図っているところです。

## 【近年の災害発生状況と今後の取り組み】

新潟県は、過去においても多くの災害を経験しており、近年では、気候変動の影響等から集中豪雨による浸水被害を受け、尊い人命と貴重な財産が失われております。

全国各地で甚大な被害をもたらした令和元年東日本台風では、新潟県上越市、妙高市、糸魚川市で県内初の大雨特別警報が発表されました。

県内を流れる一級河川信濃川水系では、信濃川の新潟県管理区間や支川浄土川で浸水被害が発生し、さらに上流の長野県を流れる千曲川で甚大な浸水被害が発生したことから、信濃川水系緊急治水対策プロジェクトが取りまとめられ、流域内の国、県、市町村が連携し治水対策を進めています。



整備が進む信濃川(写真は段野田地区)

令和4年8月3日から4日にかけて、停滞した前線の活動により線状降水帯が発生し、新潟県村上市、関川村、胎内市では大雨特別警報が発表され、各所で統計開始以来最大の降水量を観測しました。

これにより、住宅の全半壊及び床上・床下浸水

1,800棟以上になるなど甚大な被害が生じました。一方、ダムの洪水調節や防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策等を活用した河道掘削・伐木により河川の水位上昇を抑えるなど、これまでの治水対策の効果が確認されています。

現在は早期復旧を進めるとともに、流域内のあらゆる関係者と協働して流域治水の取組を推進してまいります。

本県においてもハード対策とソフト対策を一体的・総合的に推進しており、ソフト対策としては、水害リスク空白地帯の解消に向けた洪水浸水想定区域図の作成や学校の防災教育を支援するための「新潟県マイ・タイムライン教室」の実施、要配慮者利用施設の避難確保計画の作成支援等に取り組んでいます。

また、令和4年3月に見直しを行った社会資本維持管理計画に基づき、河川施設やダム等の適切な維持管理・補修を進めるよう努めてまいります。

### 【北陸地方治水大会の開催】

さて、10月27日(木)に北陸地方治水大会を新潟市で開催いたします。

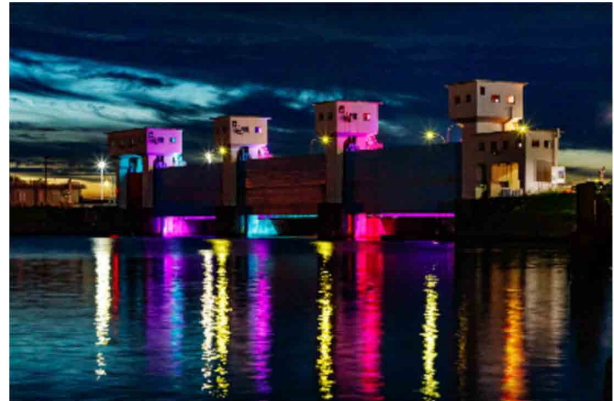
令和4年は、大河津分水通水100周年・関屋分水通水50周年を迎える記念の年です。越後平野の人々の暮らしを劇的に変えるターニングポイントとなった大河津分水、県都発展の原動力となった関屋分水。



信濃川の洪水を海に流し続け、越後平野を水害から守ってきた大河津分水  
(提供：国土交通省北陸地方整備局信濃川河川事務所)

信濃川の豊かな恵みに感謝し、先人の偉業を讃えるとともに、このふたつの分水がより深く理解されることで、安心・安全な未来につながっていくと考え、本大会では、「大河津分水と流域治水」をテーマに記念講演を、それぞれの分水のある市町村から意見発表を予定しております。

皆様のご来県を心からお待ち申し上げます。



期間限定ライトアップ! 夜景に映える関屋分水の新潟大堰(提供：新潟市)

## 中部地方治水大会の開催について

令和4年10月19日(水) 13:30～  
長野県諏訪市 ホテル紅や  
事務局 長野県建設部河川課

令和4年度中部地方治水大会の事務局を担当します長野県から、本県の紹介と大会のご案内をさせていただきます。

### 【長野県のすがた】

長野県は日本のほぼ中央に位置し、県土は、南北約212km、東西約128km、面積は約13,562km<sup>2</sup>で、国土の約3.6%を占め、全国4番目の広さを誇ります。また、群馬県、埼玉県、山梨県、静岡県、愛知県、岐阜県、富山県、新潟県の8県と接し、日本で最も多くの都道府県と隣接する県でもあります。雄大な自然と歴史に彩られた伝統文化が息づく本県は、北信、中信、東信、南信と大きく4つのエリアに分かれています。

中央部を高地が占める山地型の地形ではなく、北西の県境の飛騨山脈、南東の県境の赤石山脈の標高が高く、間のいくつかの盆地を中心とした地域が形成されています。

長野県は内陸に位置するため、概ね内陸性気候です。南北に長く、各都市の標高が異なること、さらに山脈や盆地の形状などにより、地域によって違いはあるものの、全体的に冬の冷え込みは他の内陸県と比較して厳しい状況となっています。



▲天竜川水系諏訪湖

### 【河川の現況】

長野県には、日本海に注ぐ信濃川、姫川、関川と太平洋に注ぐ天竜川、木曾川、富士川、矢作川、利根川の8水系があり、一級河川は740河川で、総延長が5,111.4kmになります。

河川数が多く管理延長も長いいため、治水事業には、地形や気象、洪水の特性、自然環境、利用者ニーズ

など、それぞれの地域における多様な実情に十分配慮した計画が求められています。



▲天竜川水系遠山川(飯田市)

### 【近年の浸水被害と治水対策】

長野県では、ここ数年、これまでに経験したことのない記録的な大雨や頻発する局地的な集中豪雨によって、各地で浸水被害が発生しています。

令和元年東日本台風では、県内に初めて大雨特別警報が発表され、千曲川流域において堤防決壊や氾濫など広範囲に甚大な被害が発生し、佐久市や長野市など東信・北信地域を中心に住家被害約7,000棟、浸水被害約1,360棟の大洪水に見舞われました。

近年にない大規模な水害を受けて、国、県、市町村では、各機関が連携して「信濃川水系緊急治水対策プロジェクト」に取り組んでおり、千曲川本川の堤防の越水防止など河川整備を含む防災・減災対策を推進しています。



▲千曲川沿川の浸水状況(長野市)



令和2年7月豪雨では、飯田市など南信地域を中心に住家被害5棟、浸水被害約114棟が発生しました。

下伊那郡大鹿村を流れる青木川では、「河川等災害関連事業」を活用して脆弱部を含む一連区間で護岸改築を行い、治水安全度の向上を図りました。



▲青木川の出水状況(下伊那郡大鹿村)

令和3年8月豪雨では、諏訪湖周辺や木曾郡木曾町など、南信地域を中心に48時間降雨や72時間降雨の観測史上記録を更新するなど数日間にわたる大雨となり、住家被害88棟、浸水被害478棟が発生しました。

諏訪湖周辺では、市街地の広範囲に浸水が生じたため、長野県に加えて国土交通省からの排水ポンプ車等の支援によって排水作業が行われました。

また、木曾町では木曾川の出水によって、護岸が流失し、河岸に接する家屋が危険にさらされたため住民が避難を余儀なくされました。現在は、災害復旧事業によって護岸の復旧を進めております。



▲諏訪湖周辺の排水ポンプ車による排水状況(諏訪市)

### 【流域治水の推進】

豪雨の頻発化、災害の激甚化が進む昨今、これまで治水を担ってきた国や県による河川整備から、市町村、民間事業者や県民等のあらゆる関係者が参画、意識を共有して取り組む「流域治水」へ転換を図る必要があります。

長野県では、「流域治水」の具体的な達成目標を定めて計画的に取り組むため、令和3年2月に「長野県流域治水推進計画」を策定しました。

引き続き、関係者の皆様と連携を図りながら「流域治水」の取組を推進し、過去に発生した大規模な浸水被害への対応、市街地等の浸水軽減のための雨水貯留等の取組、河川に関する情報提供の充実、さらには、河川環境の保全・復元など、ハード・ソフトを組み合わせた治水対策、河川環境整備を強力に進めて、水害に強い、安全・安心な地域づくりの実現を目指してまいります。

### 【中部地方治水大会の開催】

令和4年度の中中部地方治水大会は、10月19日(水)に諏訪市で開催いたします。

開催地周辺は、県内最大の湖である諏訪湖を中心に、八ヶ岳、蓼科高原、霧ヶ峰高原など変化に富んだ自然環境と自然の美しさに加えて、多くの温泉があり、近年では多様な美術館・博物館も集まっています。御来県の際は、新型コロナウイルス感染症対策にもご配慮いただき、この機会に是非、お立ち寄りいただければと思います。

多くの皆様のご来場を事務局一同、心よりお待ちしております。

## 近畿地方治水大会の開催について

令和4年10月18日(火)

福井市 福井県県民ホール(AOSSA8階)  
福井県土木部河川課

令和4年度近畿地方治水大会の事務局を担当します福井県から、本県の紹介と大会のご案内をさせていただきます。

### 【福井県のすがた】

福井県は、本州日本海側のほぼ中央に位置し、敦賀市と南越前町の間の本ノ芽峠を境として嶺北地方と嶺南地方に分かれます。

嶺北地方の隆起性の地形と嶺南地方の沈降性の地形は美しい自然を形成し、「越山若水」として親しまれており、海蝕断崖や奇石のみられる越前海岸および起伏に富んだリアス式海岸の若狭湾は、自然海岸の割合が高く、海岸線延長約420kmの大部分が国定公園に指定されています。



「レインボーライン」山頂公園山麓レストランより望む三方五湖

### 【河川の現況】

県内を流れる河川は、一級河川が2水系で160河川・延長1,100km、二級河川が22水系で41河川・延長253km、準用河川が70河川・延長135kmです。

嶺北地方の大部分を占める九頭竜川水系は、県境近い山間部に源を發し、九頭竜川の中流に大野・勝山盆地を形成し、福井平野が展開する下流で日野川を合せ日本海に注いでいます。若狭湾に面した嶺南地方は、東西に長い帯状の地形で、主な河川としては、敦賀湾に注ぐ笙の川や小浜湾に注ぐ北川、南川ですが、いずれも九頭竜川と比べると小規模です。

### 【近年の浸水被害と治水対策】

被害が大きかった近年の災害としては、福井市中心部を流れる足羽川が破堤したほか、鯖江市の河和田川、鞍谷川では堤防から越水し大きな被害がでた平成16年7月の福井豪雨があげられます。被害を受けた足羽川では、河川激甚災害対策特別緊急事業が採択され、破堤部の復旧、河積を拡大させる河床掘削、堤防の強化、橋梁架替等の工事を実施し、平成21年11月に竣工しました。



福井豪雨による足羽川の破堤(平成16年7月)

足羽川の復旧にあたっては、洪水への安全性を高めるとともに、親水性や景観にも配慮し、自然とふれあえる良好な水辺空間の創出にも努めました。令和2年6月には、足羽川の一部区間を都市・地域再生等利用区域に指定し、カヌー体験やキャンプなどイベントの場として活用いただいています。



足羽川におけるイベントの様子(令和3年3月)

令和3年7月には、前日まで注意報であった予報にもかかわらず、早朝から福井市の西部から越前町にかけて急激に降り出した大雨により、3時間の間に記録の短時間大雨情報が4回も発表されたほか、平成16年の福井豪雨を超える雨量が観測されたところもあり、一級河川志津川においては、未改修区間において堤防が決壊し、家屋の浸水や県道の通行止めなど大きな被害を受け、現在も復旧工事が続いております。

さらに、令和4年8月には、2日間で記録的短時間大雨情報が7回も発表されるなど集中した雨により、県内の広範囲で溢水が発生し、一級河川鹿<sup>か</sup>蒜<sup>ひる</sup>川においては堤防が決壊し、床上浸水104棟、床下浸水33棟の被害を受けました。また、嶺北地方と嶺南地方を結ぶ主要道が通行止め、鉄道も運休となり両地方が分断され、県民の生活に大きな支障となりました。現在も復旧に向けた取り組みを続けています。



鹿蒜川の破堤(令和4年8月、南越前町提供)

ダム事業については、国直轄の足羽川ダム、補助ダムの吉野瀬川ダムに取り組んでいます。足羽川ダム事業では、令和2年11月に本体建設工事起工式が開催され、国や池田町と協力して完成に向け事業を推進しています。また、吉野瀬川ダム事業については、令和3年8月に本体建設工事起工式が開催され、現在は、ダム本体工事および付替道路工事などを進めています。

また、ソフト対策としては、全ての県管理ダムにおける事前放流の運用を行うとともに、全ての県管理河川における「洪水浸水想定区域図」「水害リスク図」の公表、水位計および河川カメラの増設による住民への情報提供の充実に取り組んでいます。



吉野瀬川ダム 上流よりダムサイトを望む (撮影日: 令和4年8月24日)

### 【近畿地方治水大会の開催】

令和4年度の近畿地方治水大会は10月18日(火)に福井市において開催いたします。令和6年春の北陸新幹線福井・敦賀開業や、令和8年春の中部縦貫自動車道全線開通に伴い、本県の交通網はさらなる高速化が図られ、また、都市圏とのアクセスも容易なものとなります。これらの高速交通網の整備を機に、県立恐竜博物館や本年10月にオープンした日本最大の中世都市遺跡博物館である福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館等の観光にご活用いただきたいと考えております。

また、11月には越前ガニ漁が解禁されます。福井の海の幸、山の幸たくさんのお味覚を楽しんでいただきたいと思っております。



城下町の巨大ジオラマ(朝倉氏遺跡博物館)

最後になりますが、皆様のお越しを心よりお待ちしております。

# 中国地方治水大会の開催について

令和4年10月13日(木) 13:40～  
米子市 米子コンベンションセンター国際会議室  
鳥取県 県土整備部 河川課

令和4年度中国地方治水大会の事務局を担当します鳥取県から本県の紹介と大会の御案内をさせていただきます。県内外から多くの皆様の御参加をお願いします。

## 1 鳥取県のすがた

鳥取県は、中国地方の北東部に位置し、東西約120km、南北約20～50kmと東西に細長い県です。北は日本海に面し、鳥取砂丘をはじめとする白砂青松の海岸線が続き、南には、中国地方の最高峰・大山をはじめ、中国山地の山々が連なっています。山地の多い地形ながら、千代川・天神川・日野川の三つの一級河川の流域に平野が形成され、それぞれ鳥取市、倉吉市、米子市が流域の中心都市として発展しています。

気候は、冬期にも積雪による降水量が多い日本海側気候に属し、過去30年間(平成3年～令和2年)のデータによると、年間の平均降水量は1,931mmと全国平均1,661mmよりも多く、都道府県別で第11位となっています。

## 2 近年の浸水被害と今後の取組

鳥取県には、千代川・天神川・日野川・斐伊川の一級水系183河川と二級水系114河川の合計297河川があり、総延長約1,440kmのうち、約1,306kmが県管理河川です。

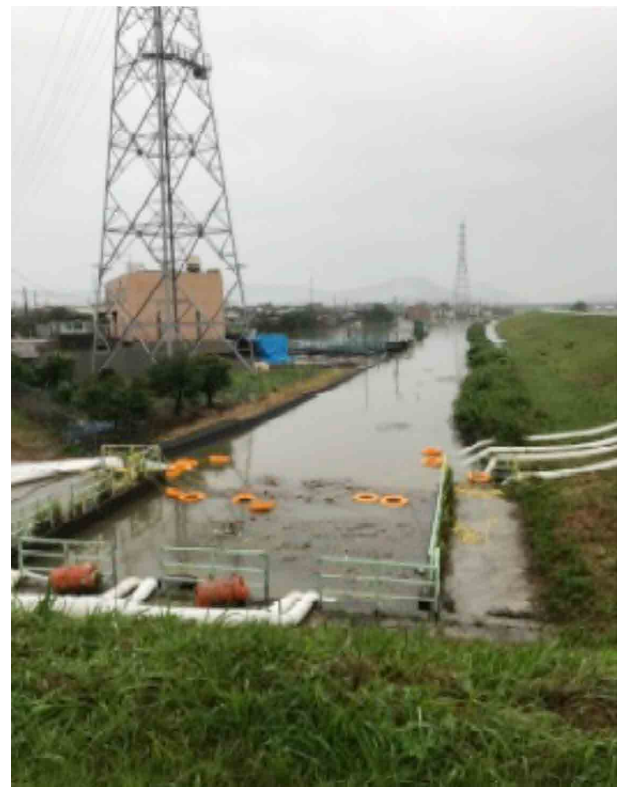
県管理河川については、昭和54年の台風20号、昭和62年の台風19号により、県内各地で大規模な水害・土砂災害が発生し、尊い人命や多くの財産が失われるなど、極めて甚大な被害が生じたことを受けて、本格的な治水対策に着手してきました。しかし、近年においても、台風や梅雨前線による豪雨、局地的な集中豪雨などにより、依然として多くの浸水被害が発生しています。

県東部を流れる千代川においては、平成30年7月豪雨の際に避難判断水位を超過し、昭和54年洪水に次ぐ戦後第二位の流量(国管理区間の行徳地点)を記録するなど、洪水が生じ下流部を中心に内水による家屋等の浸水被害が発生しました。

また、鳥取市内を流れる大路川は、戦後最大洪水

を記録した昭和54年の台風20号により、沿川の住宅密集地において、本川である千代川の水位上昇に伴う内水被害が発生し、床上浸水329棟、床下浸水218棟の甚大な被害が発生しました。このため、昭和57年に改修計画を策定し、堤防拡幅や複数の排水機場整備による内水対策を講じているところですが、平成10年、平成16年にも台風や豪雨による浸水被害が発生しました。

近年では令和3年7月梅雨前線豪雨の際に市街地を流下する大路川の支川である清水川の水位が上昇し、県内で初めて「緊急安全確保」が発令される事態となり、大路川への排水とあわせて、国土交通省応援の排水ポンプ車による排水を実施したものの、それを上回る降雨により5棟の床上・床下浸水が発生しており、更なる排水機場整備を集中的に実施するなど早期に地域の治水安全度の向上を図ることが求められています。



令和3年7月梅雨前線豪雨 清水川の浸水被害 (鳥取市吉成南)

そのほか、同市内を流れる塩見川は、流域面積に比べて河道の断面積が極端に小さく、河床勾配が緩やかであることなどから、過去より幾度となく浸水被害

に見舞われてきたため、昭和54年から河道拡幅などの河川改修を実施しているところですが、平成9年7月の梅雨前線豪雨で82棟、平成16年10月の台風23号で66棟、平成18年7月の豪雨で35棟もの床上・床下浸水が発生するなど、浸水常襲河川となっています。

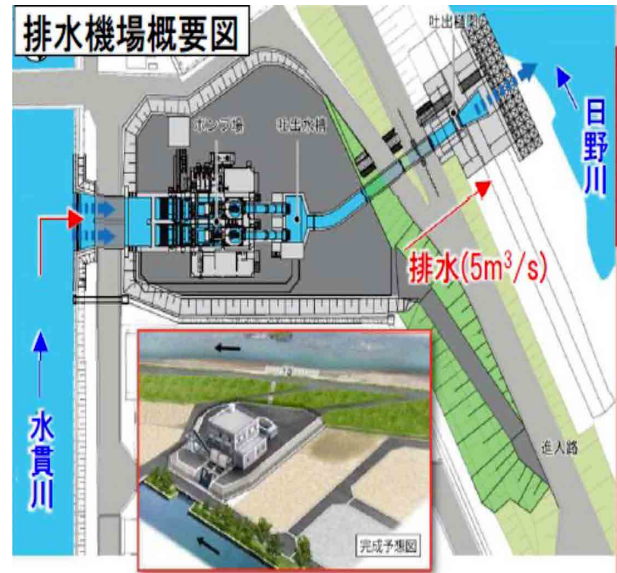
塩見川の治水上のボトルネックであった如来橋及び箭溪川合流部の平成29年度整備完了に伴い、平成29年台風18号及び平成30年7月豪雨では、近年大きな浸水被害が生じた平成18年7月豪雨と同程度の降水量であったにもかかわらず、大幅に浸水被害(面積)が軽減されるなど整備効果が確認されました。今後は、更なる被害軽減に向けて、上流区間の河道整備を進めるとともに箭溪川の流量を低減させるため、放水路の早期整備を目指すとしています。



塩見川の河川整備(ボトルネック部分の解消)(鳥取市福部町)

米子市内を流れる水貫川(日野川支川)では、昭和62年台風19号において過去最大の浸水被害(24棟床上・床下浸水)が発生し、その豪雨を契機として比較的小規模な可搬式ポンプを導入し、機動的な対応を図る「救急内水対策事業」により国土交通省が平成8年に排水機場(排水性能 $2\text{m}^3/\text{s}$ )を整備しました。しかしながら、当該排水機場の整備後においても、平成23年、平成25年及び平成30年に依然として浸水被害が発生しています。また、近年、同

河川周辺では市街化に伴う人口集積が進んでおり、昨今の気候変動による災害の激甚化・頻発化を考慮すると、今後、浸水被害が大きくなる恐れが高まっています。そのため、浸水被害の拡大を防止するため、排水機場(排水性能 $5\text{m}^3/\text{s}$ )による対策を進めています。



水貫川における排水機場整備 (米子市皆生新田)

こうした河川整備を着実に進めているものの、本県の河川整備率は約47.1%(令和4年3月末時点)に留まっており、今後も選択と集中による治水対策を一層推進することにより、限られた予算の中で効率的・効果的に治水安全度の向上を図ることが喫緊の課題となっています。

加えて、気候変動による災害の激甚化・頻発化を踏まえると、水害から生命・財産を守るためには、防災・減災、国土強靱化の強力な推進による河川整備などのハード整備を加速化するとともに、あらゆる関係者により流域全体で取り組む「流域治水」を推進し、総合的かつ多層的な対策を実施することが必要です。

本県では、「流域治水」の取組として、令和3年度から、大路川流域をモデル箇所とし、『大路川「流域治水」協議会』を設立するとともに、流域住民の皆様との意見交換や流域内の小中学校での防災授業(模型を使用し、「ため池」、「田んぼダム」、「公園・校庭など」、「宅内雨水タンク」による貯留効果を体感する授業など)、浸水深表示板の設置などの取組を進めています。この協議会の開催状況や「流域治水」の取組状況については『大路川「流域治水」通

信』という会報の発刊などにより流域関係者に情報共有し、協働関係の醸成を図っています。

今後も引き続き、関係者の皆様と連携を図りながら、防災・減災対策の一層の推進に向けて、ハードとソフトが一体となった総合的な取組を進めて参りますので、皆様の御支援と御協力をお願いします。



流域治水対策の効果を表現した模型 (鳥取大学・鳥取県による共同制作)

### 3 中国地方治水大会の開催

令和4年度の中国地方治水大会は、10月13日(木)に開催いたします。今回は新型コロナウイルスの感染拡大への対応として、会場開催と同時にWEB会議システムでの開催も行う方式で開催させていただきます。

皆様におかれましては、御多忙の中恐縮ですが、ぜひ御出席いただきますようお願い申し上げます。

## 四国地方治水大会の開催について

令和4年10月5日(水) 13:30～  
徳島市 徳島グランヴィリオホテル  
徳島県 県土整備部 河川整備課

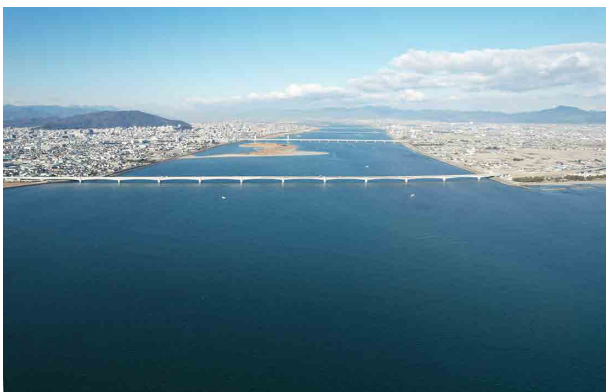
今年度の四国地方治水大会につきまして、事務局を担当します徳島県から本県の紹介と大会の御案内をさせていただきます。

### 【徳島県のすがた】

徳島県は、四国の東部に位置し、東は紀伊水道、北は香川県、南は高知県、西は愛媛県に接しています。兵庫県の淡路島と大鳴門橋で結ばれ、本州から車で移動する場合の四国の玄関口となっております。

地勢は山地が、およそ8割と多くを占め、県の中央部を東西に四国山地が走り、1,000m級の山々が県土を南北に二分しています。このうち、最も高い山は剣山で、標高1,955m、日本百名山にも名を連ねており、西日本で2番目の高さを誇ります。また、四国山地に沿うように北側には吉野川、南側には那賀川の一級水系が西から東へ流れています。吉野川は、本県に入って大歩危・小歩危の深い峡谷を形成し、その後、東流するにしたがって広く、くさび形の徳島平野を形成しています。

四国山地の南斜面の山地は豊富な森林地帯となっており、広い平地は少なく、阿南市以南では山地が直接海にせまった岩石海岸で、海は深く、港湾として適当な地形をもっています。



吉野川河口(提供:西日本高速道路株式会社)

### 【河川の現況】

徳島県の河川は、吉野川と那賀川及びこれらの支派川で形成される一級水系のほか、四国山地から東流して太平洋に注ぐ二級水系があります。一級水系は吉野川、那賀川の2水系368河川、総延長は約

1,518km、二級水系は、39水系129河川、総延長は約440kmとなっています。このうち、吉野川は「四国三郎」と称される日本でも有数の大河川で、その源流は四国の中央部、高知県吾川郡の瓶ヶ森に発し、流域は四国4県にまたがり、幹川流路延長は194km、流域面積は3,750km<sup>2</sup>の四国第一の河川です。

河川の特徴として、吉野川の北側に流れ込む各支川では、鉄砲水といわれる出水が発生し、崩壊性に富む山地土砂を流掃することにより、その多くが天井川となっています。

吉野川下流の各支川は、流路の変遷が幾度となくなされており、その流域のほとんどが平坦地で、河川勾配も緩やかなため、洪水時には本川(吉野川)水位の影響を受け、内水問題を持つ河川が数多くあります。

那賀川水系及び県南部の各河川は、その流域の複雑な山地地形と太平洋高気圧の影響を受けて、しばしば局地的な集中豪雨があり、比流量が大きい河川となっています。

### 【近年の浸水被害と治水対策】

近年の主な水害として、平成26年8月の台風第11号と第12号があり、このうち、台風第11号では、那賀川で戦後最大流量となる9,500m<sup>3</sup>/s(古庄)を記録し、那賀川流域で約950戸、県下全域では約3,000戸の家屋が浸水しました。

また、翌年7月の台風第11号では、170戸を超える家屋が浸水するなど、2年連続して甚大な浸水被害に見舞われました。



那賀町和食地区 築堤状況

こうした浸水被害を踏まえ、平成27年度から、「再度災害防止」の観点により、国においては阿南市加茂地区で、県においては那賀郡那賀町和食・土佐地区で、「床上浸水対策特別緊急事業」により、集中的に河川整備に取り組み、令和3年には、それぞれ築堤が完成しました。



阿南市加茂地区 築堤状況(提供:那賀川河川事務所)

また、令和3年9月には、県南部で線状降水帯が発生したことにより、海陽町では、1時間に120mmの降水量を記録し、四国で初めて「顕著な大雨に関する気象情報」が発表され、75戸の家屋が浸水するなど、近年、地球温暖化に伴う気候変動により、これまでに経験したことのないような豪雨が毎年の様に発生し、日本各地で深刻な水災害をもたらしています。こうした、激甚化・頻発化する水災害リスクに備えるため、本県では河川・下水道管理者等が行う対策に加え、あらゆる関係者が協働して流域全体で水害を軽減させる「流域治水」を推進しており、この5月末には、四国で初めて、一級、二級全ての水系で「流域治水プロジェクト」を策定・公表しております。



令和3年9月8日 海陽町 国道55号

### 【四国地方治水大会の開催】

今年度の四国地方治水大会は、10月5日(水)に徳島市で開催します。徳島といえば、やっぱり阿波おどり。400有余年の歴史を持ち、世界にもその名を知られる日本を代表する伝統芸能の1つです。昨年までは、新型コロナウイルス感染症の影響により中止や縮小を余儀なくされていましたが、今年は、3年ぶりに通常開催され、阿波おどり期間中は街中に阿波おどりのお囃子が響き、ぞめきのリズムに踊り子や見物客の身も心も弾みました。

また、線路と道路の両方をシームレスで走行することができる新しい乗り物「DMV」が、昨年12月に県南部の阿佐海岸鉄道において、世界初の本格営業運行を開始しています。「DMV」とは「デュアル・モード・ビークル」の略称で、マイクロバスをベースに改造され、線路走行用の鉄車輪を装備しており、線路では列車に、道路ではバスへとわずか15秒ほどでモードチェンジを行います。徳島県海陽町と高知県東洋町をつなぐ区間を運行し、さらに、土日祝日には室戸方面へ1日1往復し、線路の上だけでなく、バスになって観光施設も巡っています。



DMV(デュアル・モード・ビークル)

さらに、本県は食の宝庫でもあり、温暖な気候と恵まれた自然環境のもと多種多様な生産活動が営まれ、「なると金時」、「すだち」、「阿波尾鶏」、「鳴門わかめ」の4大ブランド品目をはじめとして、品質が高く、安全・安心な食材を生産しております。

この機会に是非、本県にお越し頂き、徳島の伝統芸能や世界初の乗り物、さらに食を堪能していただければと思います。

皆様のお越しを心からお待ちしております。



## 九州地方治水大会の開催について

令和4年10月21日(金) 13:15～  
長崎市 出島メッセ長崎  
長崎県土木部河川課

今年度の九州地方大会の事務局を担当します長崎県から本県のPRも含めてご案内をさせていただきますので、関係各位の多数のご参加をお願いします。

### 【長崎県のすがた】

長崎県は、面積4,105km<sup>2</sup>、人口約128万人で、国内本土の最西端に位置し、東に佐賀県と隣接する他は、周囲を海に囲まれ、五島、壱岐、対馬など県土の45%を占める離島と、東シナ海に突出する長崎、西彼杵や北松浦、島原という4つの半島からなります。島数は971と全国1位で、海岸線は約4,200kmと、北海道に次いで全国第2位という長さを有しています。

### 【河川の現況】

河川については、一級河川は本明川水系の1水系35河川です。二級水系は210水系、341河川で、合計211水系、376河川が流れており、総延長は1,162kmと短いながらも、二級水系の数は、北海道に次いで全国第2位となっています。

### 【過去の水害及び復旧の取組み】

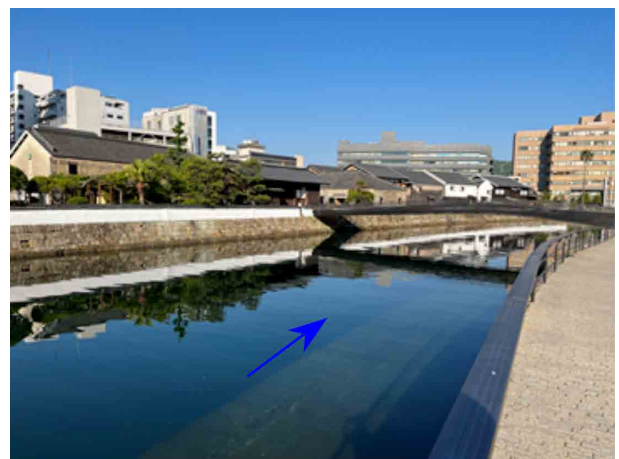
長崎県においては、昭和32年の「諫早大水害」や、昭和42年の「佐世保水害」、昭和57年の「長崎大水害」、といった数多くの豪雨災害を経験しております。「長崎大水害」では、現在でも国内観測史上最高である1時間降水量最大187mmを記録しており、長崎市街地中心部を流れる中島川、浦上川及び市東部の八郎川などの氾濫や各所で発生した土石流等により、299名に及ぶ尊い人命が失われました。

その後の中島川の治水対策にあたっては、江戸時代唯一のヨーロッパとの交易窓口であった出島や、国指定重要文化財であり日本最古のアーチ式石橋である眼鏡橋を始めとした石橋群等の歴史的に長崎を代表する風景、そして長崎のまちの骨格として存在した中島川を各種先進的な取組みにより、その歴史・文化的価値の保全を図りながら、河道改修とダム整備の組み合わせによる治水安全度の向上を図ってきました。



<中島川の石橋(袋橋)被災状況(提供: NBC長崎放送)>

河道改修にあたっては、当時としては先進的な対策として、両岸のバイパス水路の整備により、水害により一部流失した眼鏡橋の原位置での保全を図ったことや、出島に近接する明治期に整備された石積護岸について、その保全を行いながらの改修整備等の工夫がなされています。また、ダムの整備においては、中島川水系上流にある明治年鑑に日本の近代水道のさきがけとして建造された水道ダム群の再開発による多目的化を含む複数流域にまたがるダム群連携した計画である長崎水害緊急ダム事業が行われてきました。



<平成29年に中島川に架橋された出島表門橋と出島>

現在、中島川の河川改修はほぼ完了し、長崎水害緊急ダム事業についても西山ダム、中尾ダム、本河内高部ダム、本河内低部ダムの建設工事が完成し、長崎水害に係る中島川の事業は概成しております。

### 【近年の水害傾向及び現状及び今後の取組み】

前述のとおり治水対策を進めてきているところではありますが、長崎県は平坦地に乏しく、山岳・丘陵が海岸まで迫り、河川は距離が短く急勾配であり、洪水が起こりやすく、大雨が降ると河川周辺に密集した市街地で浸水被害が発生しやすいという特性があり、長崎大水害の以降40年間でみても、時間雨量100mm以上の集中豪雨の回数が増加傾向にあり、県内各地で災害の発生リスクが高まっています。

令和2年7月の梅雨前線豪雨においては、県央の大村市を中心に大規模な浸水被害が発生し、特に郡川水系の佐奈河内川においては、浸水面積約60ha、浸水家屋戸数209戸の被害を受け、河川についても合計延長1.0kmにわたり護岸が被災する甚大な被害を受けたことから、県として約30年ぶりに災害復旧助成事業を活用した改良復旧が進められています。



<佐奈河内川の被災状況>

こうした状況のなか、現在県内31河川において河川改修を実施中であり、また、ダムを整備も進めており、これまで県営の治水・多目的ダムとしては、全国最多の35ダムを建設し、現在も、国が進めている本明川ダム建設事業のほか、県営補助ダムとして石木ダム建設事業、長崎水害緊急ダム事業（浦上ダム）を実施中です。

今後とも、頻発する豪雨災害に備えて、河川・ダム等のハード整備はまだまだ必要不可欠な状況にあるため、着実な整備に努めて行く必要があると考えています。

一方、ソフト対策としては、従来の県内主要河川の水位（水位局94箇所）及び降雨状況（雨量局

204箇所）の観測に加えて、近年、危機管理型水位計218水位計を整備、これにより県内全ての2級水系において水位観測体制を整備を行い、さらに、河川監視カメラを県内29の水位情報周知河川に整備し、それら情報を長崎県河川砂防情報システム（ナックス）により情報発信を行っており、その内容の充実化を進めてきたところです。

今後とも、流域治水の推進を図るべく、水害リスク未提供区域の解消等、ハード・ソフト一体となった防災・減災対策を推進していきます。

また、今年、長崎大水害から40年、諫早大水害から65年の節目の年であることから、長崎県が事務局となり、研究機関、報道機関、行政機関で構成される実行委員会を設立し、「長崎大水害40年・諫早大水害65年メモリアル事業」として、各関係者で連携し、年間を通して県民への防災・減災の啓発、意識醸成の取組みを行っています。

### 【最後に】

長崎県は、平成27年に「明治日本の産業革命遺産」、平成30年には「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」と世界遺産の指定がなされており、中島川周辺も含めた異国情緒豊かな長崎市の街並みや、佐世保市のハウステンボスを始めとする多くの観光地や雲仙、西海二つの国立公園、離島の豊かな自然など、見どころが満載です。そして、今年9月23日には西九州新幹線が開業します。

この機会に、100年に一度と言われる変革期の只中にある、本県へぜひお越しいただき、その魅力をご堪能いただければと思います。

多数の皆様のご参加をお待ちしております。



<大村市を試験走行する西九州新幹線かもめ>